

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	<ul style="list-style-type: none"> 「新しい家庭での生き生きとした生活をめざして」を理念として掲げ、共同生活の場を新しい家庭とし、両棟玄関、面会室、ホールの中央に掲示している。 個人を尊重し、協力し合いながら生活している。職員は周知している。 	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 管理者は、日々の申し送り時、事ある度に職員に周知させ、職員も理解しサービス提供に活かしている。 共有化する為に新任研修では一番初めに研修を行っている。 	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ホーム内に利用者・来ホーム者の目につきやすい所に理念を掲示している。 入所時や事業所利用時には、理念を利用者や家人に説明している。 	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	<ul style="list-style-type: none"> 隣近所の人達に気軽に立ち寄ってもらえるような働きかけをしている。 公民館祭りや地域活動に参加し、地元の人々と交流を持っている。 ボランティアやヘルパー実習生を受け入れ、認知症普及活動を行っている。 誕生会、いも掘りなど、保育園児が、ホームを訪問し、利用者と交流活動を行っている。 	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 運営者、管理者、職員は自己評価及び外部評価を実施する意義を理解している。又、外部評価の結果を今後のケアサービスの提供に活かしている。 	
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会議のメンバーに、会議の意義や役割を理解してもらい、積極的に参加を促す取り組みを行って、サービスの向上につなげている。 	
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 市担当者に広報誌を配布し、外部評価の結果や運営会議の内容を報告している。 運営推進会議の案内、報告書を提出し必要に応じ行政との連携を図り、助言、指導を仰ぎながらサービスの課題解決に向けている。 	
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> 研修を行い理解を深めている。また、ホーム内で面会にいらした、家族に説明し、利用者が安心して生活できる環境作りを支援している。 	
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 内部研修や外部研修を実施し、職員全員が高齢者虐待防止法について学んで、理解を浸透させている。 虐待を発見した場合の対応方法や報告について、マニュアルがある。 利用者の小さな痣や傷等でも、職員間で観察を充分に行い、徹底的に追求する。 	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> ・契約時には利用者や家族に契約内容を十分に説明し、不安、疑問点を尋ね、理解、納得をされ、同意を得たうえで契約書に署名、捺印をいただいている。 ・退居時は利用者、家族に充分説明し、同意を得ている。その際、利用者や家族等の不安を最小限にするために意向を伺いながら退居先の情報提供を行っている。 	
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニットごとにある玄関と食堂に意見箱を設置しており、内容については速やかに対応している。 ・利用者の不満、苦情は、日常の言動、表情等で察するよう取り組んでいる。 ・苦情に対しては第三者委員会を設けている。 	
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・広報を送付し、行事、近況、暮らしぶりを報告している。 ・金銭については出納帳に記入し、毎月、定期的に確認していただいている。 ・毎月の請求書を郵送時、担当者が近況を伝える手紙も同封している。 	
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・家族とは面会の際、交流を持つよう務め、意見、不満、苦情を話しやすい雰囲気作りをしている。出された意見、苦情は速やかに日常のサービスに反映させている。又、検討会議で職員に徹底している。 	
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・運営者、管理者は、ホームの運営に細心の注意を払い、職員に伝え、意見、提案を反映させている。 ・職員も積極的に意見、提案を寄せている。 	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の暮らしを支援できる人員配置となっている。 ・職員の急な休みにも柔軟に対応できる体制になっている。 	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	<ul style="list-style-type: none"> 運営者や管理者、職員は、担当職員の交代による利用者への影響を理解しており、異動や配置換えに配慮している。又、その事を利用者に十分に説明した上で異動等を行い、全職員協力体制の元、行っている。 新しい職員を配置する際は利用者に充分説明するとともに全職員がフォローできるように声掛けをし、早くなじめるようにしている。 		
5. 人材の育成と支援			
17 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> 月1回以上の内部研修を行い、意見交換し、報告書を作成しそれを回覧している。 研修を日々のケアに活かすことで、各自のレベルアップを計っている。 		
18 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> 法人内のディサービスや居宅介護支援事業所と交流を持ち、アドバイスを受けている。心臓マッサージ、AED使用方法の講習会を一緒に行う。 草薙園の文化祭に参加している。 他のグループホームとの情報交換や交流を持ち、今後の支援に役立てていきたい。 		
19 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 親睦会を年に数回開催し、管理者、職員が参加し、気分転換を図り、ストレス軽減ができる環境づくりをしている。 新人職員が気軽にベテラン職員に相談できる体制をとっている。 		
20 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	<ul style="list-style-type: none"> 職員の資格取得時には、勤務を考慮している。 管理者は、保有資格を活かした職員配置とし、やりがいと向上心が持てる職場環境作りを心掛けている。 		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	<ul style="list-style-type: none"> サービス利用の相談があった時は、利用希望者や家族と直接会って話しを聞く機会を設け、困っていること、不安なこと、求めていること、身体状況を把握するよう務めている。 相談を受ける際は本人・家族との信頼関係を築くことを意識しながら対応している。 	
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 相談時、利用者の希望や家族のニーズに対し、その時点で何が必要か見極めている。 すぐに対応できることには、柔軟に実行し、すぐにできないものには他のサービスに移行できるか検討し、支援方法を見つける努力をしている。 	
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	<ul style="list-style-type: none"> 本人が安心して、サービスを利用できるように相談を受けた段階から利用者視線を心がけている。本人、家族の意向に沿ったサービスが受けられるよう十分に話し合いをしている。 入所前の生活歴や基本情報を基にサービスを展開している。 	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> 女性利用者へ調理方法をたずねたり、男性利用者へ農作業方法を教えてもらったり人生の先輩として、学んだり、教えあい、支えあう関係を築いている。 	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・面会時、家族へ近況を伝え、その都度、要望を支援サービスに盛り込み、共に利用者を支え合う関係を築く努力をしている。 ・利用者の思いや、気づきを職員間で共有できるように会議を定期的開催し、サービス計画内容に組み入れている。 		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・生活歴等を参照し、どのような家族関係にあったのか全職員が共通に認識している。 ・関係が途切れないよう、面会時に近況を伝えたり、電話、広報などを利用し、いつでも面会、外出できることを伝えている。 ・よい関係でなかった場合は、必要に応じて、関係修復に向けた取り組みをしている。原則として、電話、面会は自由であり、時間の制限もない。 		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が培ってきた地域のつながりが途切れないように、電話、手紙、面会等で交流を継続できるように支援している。 ・利用者の希望に応じて外出できるように支援している。 		
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の交流関係を考慮した上で、居室、座席、入浴を決めている。孤立しないように職員が会話に介入することもある。 ・利用者同士が、個々の能力や個性を活かしながらよい良い関係を築く支援をしている。 		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス利用が終了しても、相談や支援に応じる姿勢を示している。電話などで安否、近況を確認している。 ・入院退居の場合は、SWに情報提供をしている。 		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・職員は、利用者一人ひとりの思いや希望、意向の把握に努めている。 また、困難な場合は、家族、知人にプライバシーを考慮しながら情報を求め、利用者本位に検討している。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・利用者の生活歴や暮らし方、環境や価値観を考慮し、把握している。 ・利用してきたサービスを把握することで、ホームでのサービス利用のケアの継続性を考慮している。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・利用者の一日の過ごし方、食事、睡眠、排泄、生活習慣などを把握している。 ・日々の生活を通じて、利用者のできること、心身の状態を把握している。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・介護計画は、全職員の意見や気付いたことに基づき作成している。本人、家族、必要な関係者の意見や気づきも取り入れている。 ・介護計画は、利用者本位のものになっている。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・介護計画の実施期間を明示している。期間終了後は見直しをしている。 ・期間に関わらず、身体状況の変化や利用者家族が計画の変更を希望した場合は、随時見直しを行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<ul style="list-style-type: none"> 利用者、一人ひとりについて、毎日の暮らしぶりや身体状況を記録している。 全職員が記録の内容を共有することで、よりよいケアを実践し、介護計画の見直しに活かしている。 		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> かかりつけ医や理美容院等、冠婚葬祭、その時々々の要望に応じ、送迎を行うなど、本人、家族の状況等で柔軟に対応し、支援している。 		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	<ul style="list-style-type: none"> 利用者が心身の力をできるだけ発揮しながら安全で、より豊かな暮らしを楽しめるよう本人の意向や必要に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化、教育機関等と協力しながら支援している。 		
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 同法人の居宅支援事業所と話し合いをもったり、必要時、他事業所のケアマネジャーとも協力しながら、本人の意向にそったサービスの提供を支援している。 		
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	<ul style="list-style-type: none"> 利用者が心身の力をできるだけ発揮しながら、より安全で豊かな暮らしを実現できるように、地域包括支援センターと協働している。 困難事例の相談と支援を依頼している。 		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの受診経過を基に、希望する医療機関へ受診、介助している。 ・受診結果は、利用者や家族との共有認識している。 ・急変時に対応できるように協力体制がとられている。 		
41 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・精神科、神経科、専門医、認知症に詳しく利用者一人ひとり、個別に応じた指示と助言をしてくれる医師を確保し、受診支援している。 		
42 ○看護職との協働、 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師資格を有する職員が、利用者一人ひとりの健康状態について、気軽に相談できている。 ・不在時は、当法人内の看護師が駆け付け対応している。 		
43 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症に理解ある医療機関と協働し、できるだけ早期に退院できるように情報交換や相談ができる体制が整えられている。 ・入院時はサマリーで、利用者の認知症による問題点や生活レベル等の情報を伝える。 		
44 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	<ul style="list-style-type: none"> ・重度化した場合や、終末期に伴う対応は、利用者、家族とできるだけ早い段階で話し合い、ホームで対応できるケアについて説明を行っている。 ・希望に沿った対応ができるように医療機関とも相談している。内容はケース記録、計画書に記入する。 ・全職員で情報を共有する。 		
45 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・計画書作成時、重度化や終末期の支援内容で、できること、できないことを家族、本人に説明し、同意を得ている。 ・身体状況が変化した場合は、その都度、家族に説明し、検討の場を設けている。 		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居 所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケ ア関係者間で十分な話し合いや情報交換を 行い、住み替えによるダメージを防ぐこと に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 全職員は、利用者が別な場所へ移り住むことによるダメージを理解している。 ダメージが最小限となるよう、移動先へ利用者の近況や好み、習慣を情報として提供する。 (プライバシーに充分配慮している) 		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
47 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ね るような言葉かけや対応、記録等の個人情 報の取り扱いをしていない	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を全職員が共通の理解のうえ、行っている。内部研修等で個人情報保護法について理解し、日々の業務を行っている。目につかないカウンターの下に保管をしている。 		
48 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きか けたり、わかる力に合わせた説明を行い、 自分で決めたり納得しながら暮らせるよ うに支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 利用者ひとりひとりの話しに耳を傾け、表情や態度から内容を察する努力をしている。 又、自分で決定ができる場を積極的に作っている。 		
49 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切にし、そ の日をどのように過ごしたいか、希望に そって支援している	<ul style="list-style-type: none"> 業務中心のケアは行わず、利用者一人ひとりのペースに合わせた支援を行っている。 散歩や集団レクリエーションは希望にそって行っている。 起床時間や食事時間に制限はしていない。 		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
50 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれがで きるように支援し、理容・美容は本人の望む 店に行けるように努めている	<ul style="list-style-type: none"> 月1回のペースで、ホームにて散髪を行っているが、希望する利用者には本人の望む店に送迎したり、家族が整容する場合もある。 利用者の好みで衣類を選んでもらう。又、着衣、整容の乱れはさりげなくサポートしている。 		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・献立は、利用者の希望や好み、苦手なもの等を配慮している。 ・準備、食事、片付けを一緒に行うことで楽しんで作業を手伝ってもらっている。 		
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は、利用者の嗜好を理解している。利用者の身体状況に配慮した上で、暮らしの中に取り入れている。 例として、コーヒーが嫌いな方には、牛乳、又はお茶をすすめる。 		
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの排泄パターンを記録し、把握している。トイレ入り口に掲示している。パターンに応じ、トイレ誘導することで、自立に向けた支援を行っている。 ・プライバシーに配慮した誘導と失禁時の交換をしている。 ・おむつはずしを積極的に行っている。 		
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴習慣を考慮した支援を行っている。 ・入浴拒否する利用者には、声掛けや、対応の工夫を行っている。 		
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者一人ひとりの生活パターンを把握している。寝つけない利用者には、話し相手になったり、飲み物を提供するなど適切な対応をしている。 		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・入所者一人ひとりの状況に合わせた役割や、楽しみを見い出せるよう支援している。生活歴や希望も考慮している。 ・毎月ドライブ、誕生会などの行事がある。 ・年中行事はほとんど行い、生活に変化をつけ、楽しめるようにしている。 		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員は、利用者が自ら金銭管理を行うことの重要性を理解している。 ・利用者が自由にお金を使ったり、所持することを家族の希望も取り入れながら支援している。 		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の気分転換や楽しみにつながるよう、日常的に屋外へ外出する機会を作っている。 ・散歩や花壇の整理、隣のコンビニへの買物などへの支援をしている。 		
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が行きたい場所への、希望をとっている。 ・一人ひとりの願いが実現できるように家族と相談し、支援している。 		
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が電話や手紙を出しやすいよう、支援している。 ・いつでも、電話を掛けられることを利用者に伝えている。 		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者、家族に面会時間の設定がないことを伝え、楽しく、落ち着いて会話できる場所作りに配慮している。 		
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者と全職員は、身体拘束やその弊害について理解をしている。 ・身体拘束は行わないという姿勢で、毎日のケアを行っている。 ・やむを得ず行う場合は、その理由や方法、経過観察について記録を残す体制とし、家族に説明し、同意を得ることとなっている。 		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・日中は玄関に施錠せず、利用者は自由に外出できる。外出傾向のある利用者は、見守りを強化し、対応している。 ・無断外出に備えて、近隣や警察、他事業所からの応援が得られるような体制がある。 		
64 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	<ul style="list-style-type: none"> ・日中は常に声掛け、見守りし、利用者の様子を把握している。 ・夜間は、1時間から2時間ごとに巡視を行うことで、所在や様子を把握している。 		
65 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・洗剤、薬品、危険物は常時、管理、整頓され、保管場所には施錠することで、事故を未然に防ぐ取り組みをしている。 ・事故防止の内部研修を行っている。 		
66 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者一人ひとりの特性、行動パターンを全職員が理解し、想定される事故を職員間で検討している。 ・ヒヤリハット報告書、事故報告書は全職員が、常時確認できる場所にあり、再発を防ぐ。 		
67 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルを作成しており、全職員は常時目を通し、すぐに対応できるようにしている。 ・応急手当や、救急救命の研修を全職員が受講し、定期的に訓練を行っている。 		
68 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月15日前後に避難訓練、6ヶ月に1回は総合訓練を行っている。いざという時に適切な誘導が行えるよう、職員と利用者が一緒に定期的な訓練を行っている。日頃から近隣住民の協力と理解が得られるよう、働きかけを行っている。 ・備蓄品は、同法人や隣のコンビニの協力があるため、置いていない。 		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の高齢化に伴い、基礎疾患が多く、急な医療処置を余儀なくされる場面も考えられることから、ご家族の面会時に、リスクとその対応策を利用者の状況変化と共に報告し、説明している。 ・適宜に見直しを行っている。 		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者、一人ひとりの病歴や基礎疾患について把握している。 ・利用者の異変や兆候を見のがすことなく常に顔色や、様子に注意を払っている。 ・体調の変化や異変があった場合は記録に残し、全職員が情報を共有し、対応している。 		
71 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員は、利用者一人ひとりの薬の内容について把握している。薬の情報は、ファイルに綴って申し送りをしている。 ・服用時は、一人ひとりに手渡し、間違いなく与薬できるよう支援している。 		
72 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄チェック表を使い、一人ひとりの排便パターンを把握できている。食事は、繊維質に富んだ食物を積極的に取り入れることで、自然排便を促している。 ・下剤使用時は、個々の合わせた量と頻度で使用している。 		
73 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・食後、朝、昼、夜と口腔ケアを実施している。又、チェック表を作成しており、一人ひとりに合わせた声かけ等を行っている。 		
74 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・1日の食事摂取量は個別の一覧表に記録している。水分摂取量の把握も行われている。 ・献立はカロリーやバランスに配慮された食事になっている。ひとりひとりの健康状態に合わせ、おかゆ、刻み食にしている。 		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	<ul style="list-style-type: none"> ホーム内では、感染症対応マニュアルが作成されており、定期的に内部研修を行い、最新の情報を収集している。 インフルエンザ流行時は予防接種を施行。 手洗い、うがいは徹底されている。 		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 調理用具等は、熱湯等で消毒殺菌を行っている。食材は冷蔵庫内で、先入れ、先出しを徹底し新鮮で安全な食材を使用する工夫をしている。 		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> 玄関には癒しのため、花を飾り、植物を置く等、家庭的な雰囲気作りをしている。 利用者、家庭、近隣の人等が利用する場として常に整理、整頓し清潔を心掛けている。 		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ホール内には、ソファーやテレビ、絵や調度品を飾り、利用者がこち良い空間作りを工夫している。 カーテン等で不快な音や光が入らないように工夫している。 一般家庭と同じ居住空間としている。 		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> テーブル席やソファーなどに自由に座り、気の合う利用者同士で談笑できるスペース作りを工夫している。 		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の居室には、思い出の写真や愛着のある調 度品が持ち込まれている。他に手作りの小物など で自由に装飾することで、一人ひとり個性のある 空間となっている。 		
81 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のとどみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・気になるにおいや空気のとどみがないように定期的 に換気扇をまわし、換気に心かけている。 ・ホーム内に温度、湿度計を設置し、利用者が過 しやすい温度、湿度調整を行っている。 		
82 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活 かして、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者、一人ひとりの身体状況を把握し、住居環 境の改善にむけた工夫をしている。 ・段差や障害物がなく安全に暮らせるよう、配慮し ている。 		
83 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・居室の手すりに利用者だけにわかる目印をつけ たり、トイレの場所を大きく目印を表示するこ とで、スムーズに移動でき、利用者の排泄の自立を 促している。 		
84 ○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動でき るように活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・洗濯物を干したり、カーテンの開閉を手伝って頂 いたり、花壇の整備をしてもらっている。 		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・ 個別ケアの推進を理念とし、入居される方それぞれの個性、人権を尊重し、出来る限りの援助を行っている。
- ・ 利用者が、新しい家庭でいきいきと生活が送れるように、利用者の尊厳を保持し、その有する能力に応じ、自立した日常生活を営むことができるように支援する。